

令和4年度（2022年度）

市政モニター 第2回アンケート結果

テーマ1 「私たちの暮らしと生物多様性」について

環境部 環境政策課

テーマ2 「ごみ減量・資源化に向けた取り組み」について

資源循環部 ごみ減量対策課

テーマ3 「中学校の学校選択制」について

学校教育部 学務課

八王子市

あなたのみちを、
あるけるまち。  八王子

目 次

《市政モニターの属性》	1
-------------	---

テーマ1 「私たちの暮らしと生物多様性」について

問1 自然を感じたり、触れ合ったりする場所	2
問2 八王子で見る好きな野生の生き物（自由記述）	3
問3 環境に関する言葉の周知度	6
問4 環境問題が生活に与える影響の深刻度	7
問5 暮らしの便利さと自然環境との関わり方	7
問6 生き物との望ましい距離感	8
問7 自然環境の働きから恩恵を受けている割合	9
問8 生き物の消失による影響	10
問9 自然環境や生き物のために、心がけたり、実践していること	10
問10 自然環境や生き物を考えて生活するために必要なことやきっかけになること（自由記述）	11

テーマ2 「ごみ減量・資源化に向けた取り組み」について

問1 お住まいの形態	16
問2 各品目の分別区分	16
問3 生ごみ、プラスチック製品、紙おむつの分別収集、資源化の賛否	17
問3-1 分別収集、資源化に賛成できない理由	18
問4 生ごみ、プラスチック製品、紙おむつの分別収集、資源化についての意見（自由記述）	19
問5 小型充電式電池（リチウムイオン電池等）を原因とした、清掃施設等での火災の周知度	21
問6 ごみの減量や資源化推進などのために実践していること	22
問7 ごみの減量・資源化のために、市が重点的に取り組むべき施策	23
問8 ごみの減量・資源化のために、あなたが取り組むこと（自由記述）	24
問9 ごみの減量・資源化に関する意見・提案（自由記述）	28

テーマ3 「中学校の学校選択制」について

問1 未就学児や小・中学生のお子さんの有無	32
-----------------------	----

問2 学校選択制の周知度	33
問2-1 全中学校から選択できることの周知度	33
問3 中学校を選択できることについて思うこと	33
問4 学校と地域が連携した取り組みを行っていると思うか	34
問4-1 取り組みが行われていないと思う理由	34
問5 小・中学生が地域の活動に参加しているか	35
問5-1 参加していないと思う理由	35
問6 地域の子どもを育てる活動の状況	36
問7 中学校の学校選択制についての意見・提案（自由記述）	37

市政モニターの属性

(太枠内は今回の回収数)

全 体		郵送		インターネット		合計	
		24	24	76	73	100	97
性別	男性	9	9	38	37	47	46
	女性	15	15	38	36	53	51
年代	18歳～29歳	3	3	13	12	16	15
	30歳代	2	2	15	14	17	16
	40歳代	5	5	18	17	23	22
	50歳代	4	4	16	16	20	20
	60歳～64歳	2	2	5	5	7	7
	65歳以上	8	8	9	9	17	17
地区	中央 (本庁地区)	5	5	16	16	21	21
	西南部 (浅川・横山・館地区)	6	6	13	12	19	18
	東 部 (由木・由木東・南大沢地区)	2	2	17	16	19	18
	西 部 (元八王子・恩方・川口地区)	3	3	12	12	15	15
	東南部 (由井・北野地区)	7	7	12	12	19	19
	北 部 (加住・石川地区)	1	1	6	5	7	6

(定員は100名)

※ アンケート実施期間:令和4年(2022年)11月1日から令和4年(2022年)11月22日まで

※ 回収率:97%(小数点第2位を四捨五入)

※ 回答は各質問の回答者数(n)を基数とした百分率(%)で表示した。(百分率は、小数点以下第2位を四捨五入して算出してあるため、合計が100%にならない場合がある。また、複数回答の場合は、回答比率の合計が100%を超える場合がある。)

※ 割合の表現については、以下の表記を基本とする。

<例>

表記	4割	約4割	4割強	4割台半ば	5割近く	5割弱
割合	40.0%	40.1~40.9%	41.0~43.9%	44.0~45.9%	46.0~48.9%	49.0~49.9%

※ 自由記述の表現はできる限り原文のまま記載しているが、アンケート全体で統一するため、一部表現を修正している。また、特定の個人、団体への誹謗中傷につながる内容や企業の営業活動に影響するもの、根拠が明確でないものなどは、一部削除・修正した。

テーマⅠ 「私たちの暮らしと生物多様性」について

環境部 環境政策課

本市は、「高尾山」や「浅川」などの緑と水に恵まれた豊かな自然環境が存在し、そこには、多種多様な生き物が暮らしています。

本市ではこのような自然環境を次世代につなぐため、平成26年（2014年）に「第2次八王子市環境基本計画」を策定し、八王子のより良い環境づくりに取り組んできました。

近年、自然環境や社会情勢など本市を取り巻く状況が変化しており、環境保全の重要性が高まっています。そのため、これからの環境施策を検討するため、「私たちの暮らしと生物多様性」について、市政モニターの皆様にご意見をお伺いします。

問1 あなたは、日常生活の中で、どのような場所で自然を感じたり、自然と触れ合ったりしていますか。

(〇はいくつでも)

(n=97)

	構成比(%)
高尾山などの郊外の山地や森林	66.0
いちょう並木などの街路樹	52.6
多摩川、浅川などの大規模な河川	47.4
地域の拠点やシンボルとなっている大規模な公園	41.2
住宅街の中にある小規模な公園	38.1
お寺や神社の境内	36.1
小規模な河川(多摩川、浅川などの大規模河川以外)	25.8
自宅や民家の庭先	25.8
まちなかの雑木林	24.7
里山(雑木林や田畑で構成され、人里の近くにある場所)	20.6
郊外などにまとまってある田畑	14.4
住宅街の中にある小規模な田畑	8.2
その他	3.1
特にない	1.0

どのような場所で自然を感じたり、自然と触れ合ったりしているか聞いたところ、「高尾山などの郊外の山地や森林」が7割近く（66.0%）と最も多く、次いで「いちよう並木などの街路樹」が5割強（52.6%）であった。

【その他】具体的に記入・入力があった内容

- アパート内に植えている植物や鉢植えの世話。
- キャンプや山歩きなどで郊外へ出かけた時に触れ合う自然。
- 海

問2 八王子で見ることができる野生の生き物（動物、鳥、植物など）で、あなたが好きな生き物は何ですか。 （自由記述）

【動物】

- 猿 2件
- ムササビ 2件
- 河川敷にいるたぬき。（20歳代）
- ねこ、カナヘビ（20歳代）
- 駐車場で見かけるタヌキ。（夜）（40歳代）
- 自宅にくる馬。（種類はわからない）（40歳代）
- たぬき（40歳代）
- 栃谷戸公園のカメ。（40歳代）
- 高尾山に行ったときに見たリス。（50歳代）
- 近隣によく出没するタヌキ。（60歳代）
- オタマジャクシ（70歳代）

【鳥】

- ウグイス 6件
- 鳥 4件
- カワセミ 3件
- ツバメ 3件
- 野鳥 2件
- カモ 2件
- 白鷺 2件
- オナガ鳥 2件
- からす（20歳代）
- ムクドリ（30歳代）
- メジロ（50歳代）
- 南大沢駅前の鳩（10歳代）
- 大栗川で見かけるカワセミ。（20歳代）
- 住宅地にいるウグイス。（20歳代）

- 家の庭で見かけるウグイス。(20 歳代)
- 朝起きた時に鳴いているハト (キジバト)。(20 歳代)
- ハクセキレイ。家の前の河川に飛来する黒色系のサギ、白サギ、青サギ。(20 歳代)
- 庭に来る野生の鳥。(実家) (40 歳代)
- 近くの森で見かける小鳥。(40 歳代)
- 川で見かける白鷺。家の庭で見かけるメジロ、すずめ。(40 歳代)
- 自宅近くでみかけるヤマガラ。(40 歳代)
- 娘の保育園の木の上に遊びにくる、白サギ。(40 歳代)
- 四季折々に浅川にいるカモや鷺やキジなど野鳥全般。(40 歳代)
- 自宅の木に巣作りをしにくる山鳥。(40 歳代)
- 時々きこえるきれいな声でなく鳥。(40 歳代)
- 冬は、川にいる鷺。(40 歳代)
- 富士見台公園のウグイス。(50 歳代)
- なかなか逃げないハクセキレイ。(50 歳代)
- 最近あまり見かけ無くなったスズメ。(50 歳代)
- 浅川沿いの鴨や白い鳥。(50 歳代)
- 浅川にいる白サギ。(50 歳代)
- カワセミが美しく初めて見た時は目が釘付けになった。また、いつも川で見かける白いサギ?を可愛く思う。(60 歳代)
- キジ、鷹 (60 歳代)
- 浅川で見かける白いサギ。自宅に飛んでくる鳥(ウグイス等)。(60 歳代)
- 公園に巣を作るツミ、湯殿川のカワセミ、コサギ、コガモなど。(60 歳代)
- 河川や森林、公園などで野鳥を観察するのが好き。カワセミ、カワラヒワ、サギ類、モズ、シジュウカラ、ジョウビタキ、コゲラ、エナガ、オナガ…発見した時は心ときめく。(60 歳代)
- 住居の近くに公園があり、イチョウの木ほか、色々な木々があり、小鳥が飛んできて、心地よい鳴き声が聞こえる。(名前、種類はわからない) (70 歳代)
- 湯殿川で見かけるカワセミ。庭に毎年巣を作る白黒の鳥 (シジュウカラ)。我が家には5 m以上の木が茂った時は8本あり、そこには色々な鳥が訪れる。(ウグイス、めじろ) (70 歳代)
- 庭に来るガビチョウ、ひよ、すずめ。(70 歳代)
- 近くの川で見かける白サギ、かも。(80 歳代)

【魚】

- 鮎 2件
- 魚 (30 歳代)

【植物】

- 花 2件
- 桜 2件
- いちょう 2件
- 銀杏 2件
- ヤマユリ 2件

- 浅川の桜 (20 歳代)
- 近家で見かけるポトス。(20 歳代)
- 高尾梅郷の梅 (30 歳代)
- 森林や花は見るのは好きだがそれが野生かどうか判断ができない。(30 歳代)
- 学校、公園の桜、街路樹の木蓮の花 (40 歳代)
- 春は川沿いの桜。夏は緑豊かな公園の木々。秋は色付いた神社のイチョウ。(40 歳代)
- イチョウ並木、浅川の桜 (40 歳代)
- 綺麗な色の紫陽花。(50 歳代)
- 高尾山周辺の山野草 (杜鵑草 (ほととぎす)、キキョウ、ユリなど)。浅川にいる白サギ (50 歳代)
- 高尾山の植物、近所のすみれ (50 歳代)
- 野草、ツツジ、ハナミズキ、桜 (50 歳代)
- 秋に紅葉したイチョウ。(50 歳代)
- 甲州街道の銀杏並木 (50 歳代)
- 富士見台公園の桜 (50 歳代)
- 森の木々 (50 歳代)
- 散歩で見る、紅葉、黄葉樹等 (60 歳代)
- クローバー、ススキ、カタクリ、たんぽぽ (60 歳代)
- 20 号沿のイチョウ並木。20 号から八王子駅に入る所にある枝垂れ桜。(60 歳代)
- 桜、近所の緑道に植えられている草花。(70 歳代)
- 近くの川で見かけるコスモス。(80 歳代)

【昆虫】

- 蛍 2 件
- カブトムシ (30 歳代)
- 蝶 (40 歳代)
- セミ、トンボ (50 歳代)
- 家の庭で見かけるカマキリ (30 歳代)
- 近所の公園で夏に見る蛍が好き。(30 歳代)
- 四季折々に登場する昆虫たち。(30 歳代)
- 自宅庭にやってくるアゲハ蝶 (40 歳代)
- 高尾山のフジミドリシジミ、アオバセセリ、サカハチチョウ、ムカシトンボ、長池公園のモートンイトトンボ (60 歳代)

【その他】

- 生き物が嫌い。(30 歳代)

問3 あなたは、以下の環境に関する言葉を知っていますか。 (名称ごとに○は1つだけ)

枠内の数字は百分率 (%) で表示。 は項目内で最高値。 (n=97)

	言葉の意味を知っている	意味は知らないが言葉は聞いたことがある	言葉を聞いたこともない
気候変動	87.6	12.4	0.0
再生可能エネルギー	87.6	12.4	0.0
大気汚染	97.9	2.1	0.0
海洋汚染	92.8	6.2	1.0
生物多様性	62.9	27.8	9.3
生態系サービス	29.9	38.1	32.0
循環型社会	58.8	33.0	8.2

※「気候変動」とは…

気温や気象パターンが様々な要因により変動すること。代表的な例として人為的な要因による地球温暖化が挙げられます。

※「再生可能エネルギー」とは…

太陽光、風力、バイオマス(再生可能な生物由来の有機性資源(木くず・稲わらなど)で化石資源を除いたもの)など自然界の中から繰り返し取り出すことのできるエネルギーのこと。

※「生物多様性」とは…

様々な種類の生き物が、多様な環境に棲み、それらが互いに影響しあっていること。

※「生態系サービス」とは…

植物が酸素を供給したり、生き物から医薬品の原料が採れるなど、生物多様性が生み出す恵みのこと。

※「循環型社会」とは…

大量生産・大量消費・大量廃棄型の社会に代わるものとして提示された概念で、可能な限り廃棄物を抑制し、資源化を進めるなどにより環境への負荷が低減された社会のこと。

問4 あなたは、以下の環境問題が、ご自身の生活に与える影響はどのくらい深刻だと思いますか。
(名称ごとに○は1つだけ)

枠内の数字は百分率(%)で表示。□は項目内で最高値。(n=97)

	かなり深刻な問題だと思ふ	ある程度深刻な問題だと思ふ	どちらとも言えない	あまり深刻な問題だと思わない	深刻な問題だと思わない	わからない
地球温暖化の進行	□62.9	26.8	5.2	5.2	0.0	0.0
オゾン層の破壊	□53.6	35.1	6.2	3.1	0.0	2.1
酸性雨の発生	38.1	□39.2	17.5	4.1	0.0	1.0
川や海の汚染	□64.9	28.9	6.2	0.0	0.0	0.0
生き物の絶滅	□48.5	34.0	14.4	3.1	0.0	0.0
海洋ごみの増加	□75.3	19.6	5.2	0.0	0.0	0.0
ごみの不法投棄	□73.2	24.7	2.1	0.0	0.0	0.0

問5 暮らしの便利さと自然環境との関わり方について、あなたの考えに最も近いものはどれですか。
(○は1つだけ)

(n=97)

	構成比(%)
今の生活の便利さが確保されるなら、自然環境が失われるのはやむを得ない	1.0
今の生活の便利さが制限されない程度に、自然環境を守っていくほうがよい	38.1
今の生活の便利さが多少制限されても、自然環境を守っていくほうがよい	49.5
今の生活の便利さが大きく制限されても、自然環境を守っていくほうがよい	11.3
わからない	0.0

暮らしの便利さと自然環境との関わり方について聞いたところ、「今の生活の便利さが多少制限されても、自然環境を守っていくほうがよい」が5割弱(49.5%)と最も多く、次いで「今の生活の便利さが制限されない程度に、自然環境を守っていくほうがよい」が4割近く(38.1%)であった。

問6 あなたが暮らしている中で、生き物とはどの程度の距離感があることが望ましいと思いますか。
 (○は1つだけ)
 (n=97)

	構成比(%)
自分が生活する身近な場所で、日常的に多くの生き物が見られた方がよい	28.9
自分が生活する身近な場所では少ない方がいいが、近所の公園や河川などで多くの生き物が見られた方がよい	36.1
自分が生活する身近な場所では少ない方がいいが、郊外の山や森林で多くの生き物が見られた方がよい	30.9
生き物が多くみられる場所は、近隣市にあれば八王子市になくても構わない	2.1
生き物が多くみられる場所は、東京都以外にあればよい	1.0
わからない	1.0

生き物とはどの程度の距離感があることが望ましいか聞いたところ、「自分が生活する身近な場所では少ない方がいいが、近所の公園や河川などで多くの生き物が見られた方がよい」が4割近く(36.1%)と最も多く、次いで「自分が生活する身近な場所では少ない方がいいが、郊外の山や森林で多くの生き物が見られた方がよい」が約3割(30.9%)であった。

問7 私たちは、自然環境の働きから様々な恵みを受けています。あなたは、以下の自然環境の働きから、どの程度恩恵を受けていると感じますか。 (項目ごとに○は1つだけ)

枠内の数字は百分率 (%) で表示。 は項目内で最高値。 (n=97)

	とても恩恵を受けていると感じる	ある程度恩恵を受けていると感じる	どちらとも言えない	あまり恩恵を受けていないと感じる	まったく恩恵を受けていないと感じる
植物が二酸化炭素を吸収し酸素を出す働き	62.9	27.8	5.2	4.1	0.0
細菌や菌類が枯れた植物や動物の排泄物などを分解する働き	49.5	32.0	13.4	5.2	0.0
水や空気をきれいに保つ働き	64.9	27.8	6.2	1.0	0.0
森林が雨水を浸透させ、大規模な洪水を防ぐ働き	68.0	21.6	8.2	2.1	0.0
食料や飲み物を提供する働き	63.9	22.7	11.3	2.1	0.0
医療品や木材、繊維などの原材料を供給する働き	42.3	42.3	10.3	5.2	0.0
お花見や登山、釣りなど観光やレクリエーションを提供する働き	36.1	48.5	12.4	3.1	0.0
地域独自の文化や芸術の題材になるなど、文化的・精神的に影響を与える働き (例:御神木、伝統工芸など)	14.4	52.6	27.8	5.2	0.0

問8 現在、生き物の種類や生息場所が減少していると言われています。あなたは、このまま生き物の消失が進んだ場合、あなた自身や子ども世代の生活にどの程度影響があると思いますか。

(○は1つだけ)

(n=97)

	構成比(%)
すでに影響を受けている	14.4
今後、自分自身が影響を受けると思う	36.1
自分自身は影響を受けないが、今後子どもたちが影響を受けると思う	41.2
自分自身も子どもたちも影響を受けないと思う	2.1
どのような影響があるかわからない	6.2

生き物の消失が進んだ場合、あなた自身や子ども世代の生活にどの程度影響があると思うか聞いたところ、「自分自身は影響を受けないが、今後子どもたちが影響を受けると思う」が4割強(41.2%)と最も多く、次いで「今後、自分自身が影響を受けると思う」が4割近く(36.1%)であった。

問9 あなたは、自然環境や生き物のことを考えて、日頃から心がけていたり、実践したりしていることはありますか。

(○はいくつでも)

(n=97)

	構成比(%)
食材を無駄なく使ったり、賞味期限に気を付けるなど、食品ロス(※1)を減らすことを心がけている	79.4
マイバッグやマイボトルを利用し、プラスチックごみを出さないように心がけている	67.0
節電を心がけたり、省エネ家電や自然エネルギー由来の電気を利用している	53.6
積極的に公共交通機関や自転車を利用している	41.2
旬の食材や、地元産の食材を選んで購入している	37.1
環境に配慮している企業や商品、サービスを選ぶようにしている	26.8
ガーデニングや家庭菜園づくりを行っている	25.8
自然環境の保全活動やごみ拾いなどの美化活動に参加している	11.3
自然や生き物について勉強や学習する機会を設けている	9.3
自然観察や農業体験、エコツアー(※2)などに参加し、自然と触れ合うようにしている	1.0

その他	1.0
特になし	3.1

※1「食品ロス」とは…

まだ食べられるのに捨てられてしまう食品のこと。

※2「エコツアー」とは…

自然環境や歴史文化など、地域固有の資源を生かした体験型の観光で、観光によってそれらの資源が損なわれないもの。エコツーリズムともいう。

自然環境や生き物のことを考えて、日頃から心がけていたり、実践したりしていることがあるか聞いたところ、「食材を無駄なく使ったり、賞味期限に気を付けるなど、食品ロスを減らすことを心がけている」が8割弱（79.4%）と最も多く、次いで「マイバッグやマイボトルを利用し、プラスチックごみを出さないように心がけている」が7割近く（67.0%）であった。

【その他】具体的に記入・入力があった内容

- バイオ式の生ごみ処理機の活用

問 10 あなたが自然環境や生き物のことを考えて生活するようになるためには、どのようなこと（体験、情報、教育など）が必要ですか。また、既に自然環境や生き物のことを考えて生活している方は、どのようなことがきっかけでしたか。

（自由記述）

【体験】

- 自然と自分たちの関係性を遊びながら学ぶことや、実際に現場に行き、実態を見て学ぶこと。（10歳代）
- 体験などのセミナーのようなものがあれば、より自然環境のことを考えると思う。元々ペット（猫）を里親で飼っていたのがきっかけで、生き物の大切さは、動物も植物も同じく命だと感じる必要がある。（20歳代）
- すでにやっていることとして、ごみの分別はしっかりしている。また、アプリを活用して電気使用量を細かく確認し、無駄な電気使用が見える化している。外から家電を操作できるようにし、消し忘れにも気を付けている。（20歳代）
- 実際の生活に影響があるということを身をもって経験すること。（20歳代）
- テレビで海の生き物がポイ捨てされたごみを誤って食べてしまうというニュースを見かけた。趣味でシュノーケリングを良くしているが、実際に海を泳いでいたり海沿いを散歩しているときに多くのごみを見かけ、少しでもごみを減らしたいと思うようになった。（20歳代）
- コロナ禍になり、食べ物に気を使うようになってから、無農薬や無添加な物を購入するようになり、最近ではビーガンをよく目にするようになった。100%ではないがビーガンな物があつたら購入したりしている。（30歳代）

- ニュースで世界の気候が変化していることを感じる。この数年、台風はもちろんだが、大雨や強風でも今までになかったような被害がでることが多くなった。元々自然の中で体を動かすことが好きなため、自然の変化を感じる。子どもの頃から自然と触れ合い、自然と共存していることを実感することが必要だと思う。(40 歳代)
- 599 ミュージアムのように子どもも興味を持てるような展示のスペースや、夕焼け小焼けのように自然と触れ合えるスペースがもっと充実すると良いと思う。(40 歳代)
- 暑さが酷く犬たちの散歩の時間が確保しにくくなっている。このままいけば、次は人が外に出られなくなることが想像できる。自分達の身近な存在に制限がかかるときに初めて気がつくので、そのような擬似体験ができると良い。(40 歳代)
- 実際に絶滅していく過程をテーマにした映画を見たことがきっかけ。(40 歳代)
- 電化製品ばかりに向き合う毎日だが、時には素足で土の上を歩くことや、緑や河川の自然豊かなところで過ごす時間が大事だと考える。(40 歳代)
- 動植物との触れ合いの場が重要と思う。(40 歳代)
- 実家（兵庫県）で家の周りが比較的自然に恵まれていたことがきっかけだと考える。現在、町中の周りがビルに囲まれているマンションにいるが、幼い頃からそういった環境だけで暮らしていた場合は意識が違っていたと思う。(50 歳代)
- 釣りやキャンプや登山が好きなので自然はきれいなほうが気持ち良いため自然を大切にしている。(50 歳代)
- 過去の体験が、家庭や地域、学校等の集団の中で実体験できる環境をつくること。子どもが大学を卒業して独立後、子育てから開放された時に地域に目が向く様になった。(50 歳代)
- 自然や生き物とじかに触れ合う機会を積極的に作るようにする。(50 歳代)
- 市内の農業生産者との定期交流は有意義だと思う。栽培過程、収穫体験、調理・試食の体験で自然の恵みを感じられると思う。(50 歳代)
- 幼い頃から、自然の恵みを肌で感じられるように取り組みをする。(50 歳代)
- 小学生ぐらいの時から（きっかけは特になく）考えて生活してきた。おそらく遠足や散歩、家族旅行などで自然と触れ合ったとき、本能的に（?!）これらを大切にしなければいけないと思った。(50 歳代)
- 幼少期から生き物に触れさせて共存して生きていることを学ばせなければいけないと感じているが、怖い、気持ちが悪いなどの感情をどのようにすれば良いかわからない。(60 歳代)
- 人間としての生活活動と両立できる自然保護を行えるように、条例による保護、エコツアーなどによる教育、ごみの分別や回収、清掃などによる環境美化活動などが必要。(60 歳代)
- 会社生活での体験 (70 歳代)
- 自然環境や生き物に触れ合う機会を作る。例えば登山。(70 歳代)
- 四季を感じさせる木々の紅葉、落葉、芽吹き、開花、新緑に気づくこと。気温の長期的変動への不安と自分自身の健康への影響が心配。(70 歳代)
- 以前は別荘地に住んでいたため（11 年）、その時から自然環境や生き物のことは考えて生活していた。現在の住居地は交通、その他の便も良いが、自然環境も以前のところに近い感じがする。(70 歳代)

【情報】

- テレビのコマーシャルや、商品のパッケージに書いてると知ることができ、考えるきっかけにできる。(20 歳代)
- 情報 (30 歳代)
- 身近なことからできる具体的な取組を知ること。(30 歳代)
- 自然環境を考慮しないで生活すると未来がどうになってしまうのか、学校教育や体験活動などを通じて情報発信をしていくことが大切だと思う。一人ひとりの今後に関わることだと認識していく必要があるのではないか。小学校の頃、鮭を放流しに川へ行ったとき、鮭が将来戻って来られるような川である必要があると言っていた小学校の先生の言葉が印象に残っている。またニュースなどでイノシシやクマの被害を耳にする。山に食材がないため、町にやってきて食べ物を探しているという話を聞くと、野生動物のためにも、人間のエゴで自然環境を破壊してはいけないと考えてしまう。(30 歳代)
- 八王子市ではどのような取組を行っているのか、また、現実にどれだけの環境が損なわれているのかの情報提供。(40 歳代)
- テレビから情報を得ることが多いので、CM 等でインパクトのある内容で流れたらありがたい。近年の気温上昇による天候不順、異常気象などがきっかけ。(40 歳代)
- 自然環境に関する情報番組を家族で観て議論する。自然の多い場所に出かけて、自然に対する感受性を高める。(40 歳代)
- 科学館や博物館など影響を与える場の提供 (40 歳代)
- 毎年開催される環境フェスティバルなどのイベントで環境について考えるきっかけになった。(40 歳代)
- 過去から未来に向けた動植物の減少量などの情報が展開されることで、深刻さがわかるかと思う。また、それをどうすることでそのスピードを緩やかに、もしくは増加させることができるかを知ることが重要だと思う。(40 歳代)
- 情報を調べたり、きちんと知ることが大事だと思う。(40 歳代)
- ナショナルジオグラフィック等のメディア。(40 歳代)
- 現在起きている自然環境についての身近な情報が正しく伝わる機会があれば、日々の生活で気を付けていくことができるのではないかと思う。(40 歳代)
- 生き物=ペット化および愛らしいだけではなく、野生の生き物がもたらすデメリットも知る必要があると思う。どのような実害があるのかを学ぶ機会は重要だと思う。(50 歳代)
- 必要な情報が簡単に入手できること。(50 歳代)
- 登山が趣味で良く高尾山に行くが、登山道以外の道ができて、植物が荒らされているのが気になる。ビジターセンターで発行されている情報誌での注意喚起や「登山道ではありません」とロープを張り、表示してくれている活動に頭が下がる。学校教育や身近な自然が壊れていることを報道し続けることが必要だと思う。(50 歳代)
- 貿易を仕事としており、ワシントン条約やロッテルダム条約を知ることとなったため。(50 歳代)
- 具体的に何をどうすればどんな結果が得られるのか知りたい。目標は地球全体で大きすぎてしまうが、人間一人の行動の積み重ねだと思う。(60 歳代)
- テレビやインターネットの動画を見て重大さを認識した。(60 歳代)
- 現代問題になっている地球温暖化。その実態と生き物に差し迫る気候変動の恐怖を先ず見て知

り、ごみ減量、資源のセーブがいかに大切に気付くことが大事だと思う。私自身、ニュースやテレビのドキュメンタリー番組で、深刻な環境問題について知り、自分自身が出すごみの削減やエネルギー等の節約、日頃からできることを始めた。街中のハイビジョン、公共交通機関内、スーパー、病院、メディアなど、人の目にふれるあらゆる場所を利用して、その情報と具体的な対策を配信し、人々に問いかけることが大事なのではないか。(60 歳代)

- メディアの報道 (70 歳代)

【教育】

- 学校での自然環境に関する授業。(10 歳代)
- 自然環境の破壊をもたらすシミュレーション映像などのわかりやすい教育が必要だと思う。(20 歳代)
- 教育が必要。最低限の知識、下地がないと体験活動などを実施しても意味がないと考えている。大学の授業や資格勉強で自然環境を学んだことがきっかけかもしれない。(20 歳代)
- 小中学校でのホタルの人工飼育 (20 歳代)
- まずは教育が 1 番だと思う。知らないことは罪でもあると思う。(30 歳代)
- 学生に対する学びの機会の提供 (30 歳代)
- 母親も植物や水の生き物に興味があるため、小さな頃に、花を見つけると名前について話したりしたことや、自然に触れる機会が多かったこと。また、小学校の授業時間に、先生とクラスで栗拾いしたことなどが楽しかった記憶になっている。(30 歳代)
- 基本的にドキュメンタリーなどの影響で、教育から学んだ記憶がない。学校でもっと重点的に学ぶべき。(30 歳代)
- 子ども達は体感しないとわからないため「ただごみを減らす」と教えられても、それがどう環境のためになっているのか理解できず行動に移さない。学校の授業でも実際に起きていることを写真で見せるなどしてほしい。ごみの分別も何故しなければいけないのか、することによって何が変わるのか？を毎年(繰り返し)考える時間を作ってほしい。(40 歳代)
- 自然環境に対し直接的にというより、基本的な想像力の醸成教育。(50 歳代)
- きっかけは環境破壊のニュースを見たこと。学校の授業を通して、小さな時から自然破壊の恐ろしさを教えることが必要。(50 歳代)
- 中学、高校で生物部にいたため、自然界を観察、調査したことがきっかけ。(60 歳代)
- 田舎や自然に触れる体験を教育の中で多く取り入れられることが豊かな人間形成に大切だと思う。自分の孫たちにもそういう経験をさせるようにしているが、なかなか難しい。カマキリやカブトムシ、クワガタなどの採取や、魚釣りなどの経験をさせることで自然の大切さを学ばせる。(60 歳代)
- 自然環境での学習。(60 歳代)
- 教育の現場でしっかり教えるべき。テレビで関連するいろんな番組を見ていて考えさせられ、自分の生き方を見直した。(70 歳代)

【その他】

- 山や森林にエサがなくなってくると、野生動物（タヌキやハクビシン）が下りてきて、ごみをあさることが増えるため、きちんとごみの始末をし、開けられないようなごみ箱を使用する。むやみにエサを野生動物に与えない。(20 歳代)
- 人間だけでなく、すべての生物が暮らせるような自然環境にしたい。人間の行動が良くないなら直すべき。(30 歳代)
- 自分から学ぼうとする気持ちが大事だと思う。ただ単に「エコバッグが良い」と有識者が言っていたからとすべての人がエコバッグを使ったほうが良いというような極端な学び方をせずに物事の仕組みを学んで自ら考えることが大切だと思う。(30 歳代)
- 人として最低限なこと。(50 歳代)
- 自然環境や生き物のことを考えて生活したいと思っても、毎日の暮らしは生活必需品を購入しなければ成り立たない。よって、生活必需品は自然環境や生き物を考えた製品だけを優先的に購入することが大事ではないかと考えている。(70 歳代)
- 片倉城跡公園の上り坂の手すりが低かったり、無かったりして、登るのに苦労する。自然環境や生き物のことを考えて生活するようになるためには、観光地ぐらいはきちんと整備する必要があると思う。(70 歳代)

テーマ2 「ごみ減量・資源化に向けた取り組み」について

資源循環部 ごみ減量対策課

本市では、平成 31 年（2019 年）3 月に八王子市ごみ処理基本計画「循環型都市八王子プラン」（計画期間 10 年間）を策定し、市民の皆様や事業者との協働により更なるごみの減量・資源化に取り組んでいます。

この「循環型都市八王子プラン」は令和 5 年度（2023 年度）に中間目標年度を迎えることから、今後見直しを行う予定です。そこで、「ごみの減量・資源化」の現状についてご意見を伺い、計画を見直していくため、市政モニターの皆様にご意見をお伺いします。

問1 あなたのお住まいは、次のうちどちらですか。 (〇は1つだけ)
(n=97)

	構成比(%)
戸建住宅	53.6
集合住宅(アパートやマンションなど)	46.4

お住いの形態を聞いたところ、「戸建住宅」が5割強（53.6%）、「集合住宅（アパートやマンションなど）」が5割近く（46.4%）であった。

問2 次の品目の分別区分について、品目ごとに当てはまると思うものに〇を付けてください。
(品目ごとに〇は1つだけ)

枠内の数字は百分率 (%) で表示。□ は項目内で最高値。 (n=97)

	可燃ごみ	不燃ごみ	有害ごみ	容器包装 プラスチック	正しくは
プラスチック製品(CD ケース、バケツ等)	39.2	8.2	1.0	□51.5	可燃ごみ
小型充電式電池を取り外せない小型家電(モバイルバッテリー等)	0.0	16.5	□83.5	0.0	有害ごみ
革・ゴム製品	□78.4	16.5	5.2	0.0	可燃ごみ

	可燃ごみ	不燃ごみ	有害ごみ	容器包装 プラスチック	正しくは
ガラス・陶磁器	1.0	94.8	3.1	1.0	不燃ごみ
使い切ったスプレー缶	0.0	21.6	76.3	2.1	有害ごみ

問3 図1のグラフより、家庭から可燃ごみとして収集しているもの(※)の内訳を見ると、資源化が可能な生ごみ、プラスチック類、紙おむつが半分を占めていることが分かり、それらの減量・資源化への取り組みを進めることが必要となっています。

※可燃ごみ指定収集袋、ボランティア袋、おむつ袋、草葉等

生ごみ、プラスチック製品(歯ブラシや洗面器など)、紙おむつを分別収集、資源化することについてどう思いますか。品目ごとに当てはまるものに○を付けてください。

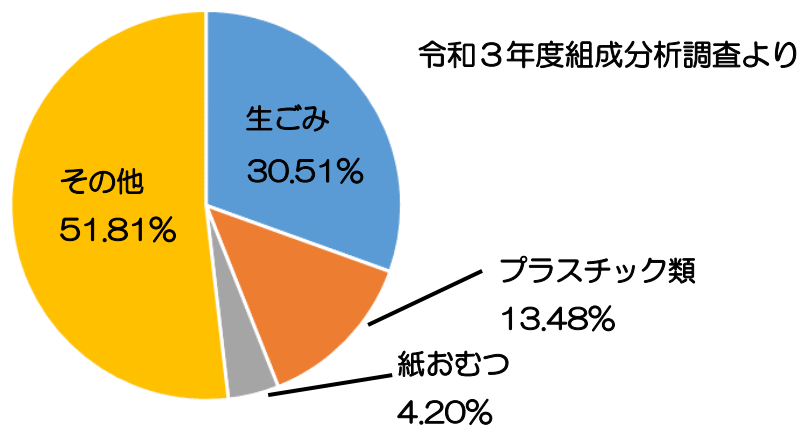
(名称ごとに○は1つだけ)

枠内の数字は百分率(%)で表示。□は項目内で最高値。

(n=97)

資源化する品目	賛成	反対	どちらともいえない
生ごみ	77.3	2.1	20.6
プラスチック製品 ※	87.6	3.1	9.3
紙おむつ	63.9	7.2	28.9

※プラスチック製品は「容器包装プラスチック」と一緒に収集



【問3で1つでも「反対」「どちらともいえない」と回答した方】

問3 - 1 その理由をお答えください。

(〇はいくつでも)

(n=35)

	構成比(%)
分別の手間や負担が増えるため	54.3
ごみ処理費用が大きくなるため	40.0
分別収集・資源化の意義が分からないため	40.0
その他	22.9

生ごみ、プラスチック製品、紙おむつを分別収集、資源化することに「反対」または「どちらともいえない」に回答した方に理由を聞いたところ、「分別の手間や負担が増えるため」が5割台半ば(54.3%)と最も多かった。

【その他】具体的に記入・入力があった内容

- プラ表示のないプラスチック製品や紙おむつが実際どのような過程で処理されていくのかわからないので情報がほしい。
- 汚物をどういう方法で資源化するのか分からないので反対。
- 排泄物なので、感染症のリスクがあると思う。
- 紙おむつの資源化について勉強不足でわからない。
- 判断材料を持っていない。
- 扱ったことがないからわからない。
- 使用していない。

問4 その他、生ごみ、プラスチック製品、紙おむつの分別収集、資源化について、ご意見がありましたらご記入ください。 (自由記述)

【生ごみ】

- 生ごみの分別収集は、臭いや衛生面なども考えて行わないといけないので中々難しいと思う。(30 歳代)
- 生ごみリサイクラーなどが設置されたり配布されたりすれば良いと思う。(30 歳代)
- 生ごみの量が多く、燃えるごみで出すのは圧倒的に生ごみが多いので、いつも気になっている。生ごみ処理機を検討しており、市からも補助金ができることは知っているが、種類があり、一長一短があるので踏み切れていない。(40 歳代)
- 生ごみは堆肥化して地元農家で消化することが望ましいと思う。回収までの自宅保管が抵抗を感じるかも知れない。(50 歳代)
- 生ごみ処理は各家庭で対応できるように、もう少し補助があると浸透すると思う。(50 歳代)
- 生ごみを捨てる袋として、スーパーでもらう浅いプラ袋を使っている。臭い防止の為、少量ずつくるんで捨てている。本当はプラ袋を使いたくは無いが、何か良い仕組みはないか。(60 歳代)

【プラスチック製品】

- プラスチックごみなどもビン、缶などの回収時と同じように袋に入れずにもっと細かく分別して直接カゴなどに捨てられるようになると良いと思う。(40 歳代)
- プラスチック製品が非常に多く、特に過剰包装が気になる。スーパーで買い物をし、自炊するだけでも毎日かなりの量のプラスチックができる。再生にまわしているが、自然環境に配慮する再生可能な技術の開発を加速してほしい。(40 歳代)
- プラスチック製品の回収方法の統一。(50 歳代)
- プラスチックごみは少しでも汚れていると燃えるごみに出す。汚れの範囲はどの位なのか(水 1 m³中水の汚染はどのくらいか)。詰め替えシャンプーの袋、パンの包装材、ヨーグルトのケースなど。(70 歳代)

【紙おむつ】

- 紙おむつの資源化とは…? 想像ができなすぎてよくわからない。(30 歳代)
- 紙おむつは可燃ごみと区別しているので、すぐにでも分別収集できると思う。(40 歳代)
- 紙おむつは、衛生的な問題がクリアできれば資源化しても良いと思う。(50 歳代)
- 生ごみや紙おむつは衛生面で不安がある。(50 歳代)
- 紙おむつは活用方法の知識がないが、やはり保管が課題かも知れない。回収頻度や保管場所に安心できるサポートが必要だと思う。(50 歳代)
- 紙おむつの使用は、高齢化により子どもより高齢者の使用が増え、おむつ袋の使用者も増えると思うので、無料でなくても良いのではないか。おむつは介護認定を受けていれば八王子市から無料で配布してもらえているので、わずかでもお金を取ってもいいのではないか。子どもは無料で良いと思う。(60 歳代)
- 使用した紙オムツが資源化できるのか? 本当なら素晴らしいと思う。(70 歳代)

【分別をしっかり行う】

- 手間はかかるが1人ひとりがまとめてから出せば、そこまで大変なことではないと思っている。それより分別しないでごみを出す方が効率が悪い。子どもの時から常に意識させることが大事。(40 歳代)
- 全ての人がきちんと分別できるなら意味あることと思う。(50 歳代)

【分別が難しい・分かりづらい】

- 分別の定義が曖昧でわかりづらい。(20 歳代)
- 八王子は現状もごみの分別が厳しい。これ以上負担を増やさないでほしい。(30 歳代)
- ごみの分別に迷いスマホでよく検索をする。プラスチックは汚れているものは洗うようにしているが、どこまで落とせば良いか迷う。(40 歳代)
- お年寄りの一人暮らしの方には分別が難しいものもある(例えばヨーグルトにはフタがリサイクル可のプラごみ、本体は紙製で可燃ごみの物がある。)。宅配ミールを頼んでいる方のようなので、宅配業者が責任を持って捨てるなどしてあげないと本人にはできない様子。(50 歳代)
- 可燃不燃材料を組み合わせた製品を分別する時に悩む。旅行用スーツケースや玩具。(60 歳代)

【資源化】

- 資源化について積極的に行ってほしい。(20 歳代)
- 資源になるものはすべて資源にしてほしい。(20 歳代)
- 自身が出したごみがどのような処分、資源化されているのか、いまいちイメージがわからないので、しっかりと可視化し、理解してもらうことが大事だと思う。また、大きな目標設定をして、年度末などに去年と比べてこれだけ減らすことができた、全市をあげて一大キャンペーンを展開してみるのも良いのでは。(40 歳代)
- 全般的に資源化には賛成。それによる袋代のコストがかかるのが懸念材料。収集業者さんの負担面も考慮してほしい。(40 歳代)
- 資源化には高度な技術やコストが必要なので早めに検討してほしい。(60 歳代)
- 未来の子ども達が安心して暮らせる環境を守るため、資源ごみの細分化、分別に協力して行きたいと思うが、商品の製造者側でも、資源ごみに出しやすい工夫をしてほしいし、小売業やスーパー側においては、パック詰めの使用を極力無くす工夫が求められていると思う。(60 歳代)
- ごみの分別をすることによって、その資源化及び環境等への影響などの情報が、色々な人々にわかりやすくしてくれることが大事だと思う。(70 歳代)
- 分別して、再利用できるものは全て利用すべき。(70 歳代)

【その他】

- ごみステーションのような場所を設置して、収集日でなくても気軽に出せるようにしてほしい。(20 歳代)
- 再生可能なエネルギーは循環するべき。(30 歳代)
- 細分化をするには周知が必要だが、相当時間を要すると思う。時間をかけた方がいいが根付かない危惧もある。(50 歳代)
- 収集業者によって時間、やり方が違うのが困る。特に資源回収。丁寧な業者もいれば、態度の悪い方もいる。業者の指導をしてほしい。(50 歳代)

- 以前、CD ケースを容器包装で出して、返された経験がある。返された意味が全くわからなかった。(60 歳代)
- ごみからの再生品を市役所で優先的、積極的に購入すべき。(60 歳代)
- すべてのごみが焼却可能な炉を導入してほしい。(70 歳代)
- ごみ収集が朝が早すぎる。(一部) (70 歳代)

問5 スマートフォンやモバイルバッテリー等の小型家電に内蔵されている小型充電式電池（リチウムイオン電池等）を原因とした、清掃施設等での火災が全国的な問題となっていることを知っていますか。

(○は1つだけ)

(n=97)

	構成比(%)
知っている	71.1
知らなかった	28.9

小型充電式電池を原因とした、清掃施設等での火災が全国的な問題となっていることについて聞いたところ、「知っている」が7割強（71.1%）、「知らなかった」が3割近く（28.9%）であった。

問6 あなたが普段の生活の中で、ごみの減量や資源化推進などのために実践していることは何ですか。
(品目ごとに○は1つだけ)

枠内の数字は百分率(%)で表示。□は項目内で最高値。(n=97)

項目	している	ときどきしている	あまりしていない	していない
市の分別のルールを守ってごみ・資源物を排出している	93.8	6.2	0.0	0.0
必要以上の包装は断っている	64.9	22.7	10.3	2.1
詰め替えや繰り返し利用できる製品を選ぶようにしている	74.2	21.6	4.1	0.0
スーパーマーケットなどでの店頭回収を利用している	22.7	22.7	21.6	33.0
ダンボールコンポスト(※1)や生ごみ処理機を使用している	4.1	3.1	4.1	88.7
フリーマーケットやリサイクルショップ等を利用している	10.3	18.6	24.7	46.4
インターネットやアプリを活用して不要になったものを他人に売っている(またはゆずっている)	17.5	19.6	12.4	50.5
地域の資源集団回収に参加している	21.6	11.3	12.4	54.6
「みんなの川・町の清掃デー」などの地域の清掃に参加している	11.3	4.1	18.6	66.0
小型家電から取り外した小型充電式電池や、取り外せない小型家電を有害ごみ(または店頭回収)で出している	62.9	18.6	3.1	15.5

※1ダンボールコンポストとは…

ダンボールに入れた基材に生ごみを入れてかき混ぜ、微生物の力で分解したい肥に変えるもの。

問7 今後、ごみの減量・資源化のために、八王子市としてどんな施策に重点的に取り組むことが重要だと思いますか。

(〇は3つまで)

(n=97)

	構成比(%)
学校などでの子どもへの教育	52.6
不要になった衣服や家具等のリユース(再使用)の場の提供、リユース方法の情報提供	40.2
食品廃棄物の減量・資源化の推進	39.2
高齢者や自力でごみ出しできない方への支援	34.0
プラスチックごみ削減の推進・資源化	29.9
地域のごみ減量や、環境美化活動への支援	23.7
ごみ減量・リサイクルに関する情報提供(ごみ減量の目的やごみのゆくえ等)	18.6
ごみの減量に取り組めていない方への排出指導	16.5
ごみ・資源物処理に伴い発生するCO ₂ (二酸化炭素)の削減	12.4
紙おむつの資源化	6.2
事業者への啓発や指導	6.2
ごみ・資源物処理費用の削減	4.1
その他	3.1

ごみの減量・資源化のために、市はどんな施策を重点的に取り組むことが重要か聞いたところ、「学校などでの子どもへの教育」が5割強(52.6%)と最も多く、次いで「不要になった衣服や家具等のリユース(再使用)の場の提供、リユース方法の情報提供」が約4割(40.2%)であった。

【その他】具体的に記入・入力があった内容

- 生ごみ処理機購入補助の拡大。
- 普段捨てる場所に迷うようなごみを回収できるステーションを市内に設ける。あるいは食品は家電業者と提携して、市民が気軽に持っていくことができる場所を増やす。そうすることで、分別と資源化を推進する。一方で、生ごみコンポストマシンを購入しやすい施策もあると良い。

問8 今後、ごみの減量・資源化のために、あなた自身（あなたの世帯）が取り組めることをご記入ください。
(自由記述 300字以内)

【必要以上の物は買わない】

- ムダなものは買わない。あまりごみを出さない食品選び。自宅のできる農業。(20歳代)
- 必要以上の買い物をしない。分別をきちんとする。生ごみ(三角コーナー)はひと絞りして水分を切る。(20歳代)
- 洗剤などは可能な限り詰め替え品を購入する。(20歳代)
- 必要以上に食料を買いだめしない。分別を子どもにしっかり教える。(30歳代)
- 余計な物を買わない、作らない。(40歳代)
- 必要なもの以外買わない。分別をしっかりする。(40歳代)
- 不必要な物を購入しない。必要以上に食料品を購入しない。(40歳代)
- 必要以上に物を持たない。購入時はなるべく再利用できる物を買う。(40歳代)
- 食品など不要なものを極力買わない。余る場合は、フードドライブ、リサイクルに供給する(40歳代)
- 物は考えて購入する。不用品はリサイクルを心がける。(50歳代)
- 無駄なものを購入しない。(50歳代)
- 必要以上に食品や物を買わない。(50歳代)
- ほしいものより必要なものだけ購入するようにしたい。長い年月で自分の持ち物で使わない物が結構あり反省している。(60歳代)
- 買い過ぎない。(60歳代)
- 必要以上の食料は買わないようにする。使えるうちはプラスチック製品も使う。食品で捨てる物は生ごみで出さないで肥料にする。衣類はなるべく兄弟友達にあげる。下着は小さく切ってぞうきんにする。(80歳代)

【食品ロスをなくす】

- 食品ロスを減らす。(10歳代)
- 食材の可食部は無駄なく使い、今まで使用してなかった部分を使用したレシピなどを検索や考案をして生ごみを削減する。(20歳代)
- 食べ物を残さない。また、たべられる部分はすべて食べる。無駄なものは買わない。(20歳代)
- 食品ロスを発生させない。(30歳代)
- 食品ロスを減らす。(40歳代)
- 食品ロスを更に減らしていく。(40歳代)
- なるべく食品ロスを減らし、ごみの分別を徹底していく。(40歳代)
- 使い切りを徹底する。(40歳代)
- 食材を使い切れるように料理を工夫している。(40歳代)
- 大きなことはできないが、賞味期限内に食べ切る、必要以上に買わないなど小さいことの積み重ねが大切だと思う。(50歳代)
- 食材の使い切りをする。(50歳代)
- 食べきる、使い切る、フードバンクに協力する。(60歳代)
- 食材ロスの低減。(70歳代)

【マイバッグ・マイボトル】

- マイバスケットやマイバッグを活用する。(30 歳代)
- マイバッグ・マイボトルの活用。(50 歳代)
- 不必要な梱包はしない。マイバッグ、水筒を使ってプラごみを減らす。(50 歳代)
- エコバッグ持参。(50 歳代)
- 買い物袋を持参する。(60 歳代)

【ごみの分別】

- ごみの分別や再利用。(20 歳代)
- 資源化できるものは分別して出すなど、小さなことからコツコツと行っていききたい。(20 歳代)
- ごみの分別を今後も行つて、過剰な包装などをしない。(20 歳代)
- きちんとルールに則つて分別を行う。(30 歳代)
- 今まで以上にしっかりと分別していく。(30 歳代)
- 家族のごみ分別の徹底や共有。買い物に行くときに余分なものを買わないようにしたりする。(30 歳代)
- ごみの分別を心がける。(30 歳代)
- 分別をきちんに行う。(30 歳代)
- ごみの分別をきちんとする。(40 歳代)
- ごみの分別をしっかり心掛ける。(40 歳代)
- 子どもと一緒に分別作業をやる。(40 歳代)
- 分別資源ごみの中で、可燃ごみをもっとこまめに洗つて資源ごみにする。(40 歳代)
- 分別は家族内でもきちんと仕分けられるようにしている。(40 歳代)
- ごみの正しい分別の継続。(50 歳代)
- 正しい分別の継続。(50 歳代)
- 資源回収に協力する。(50 歳代)
- (実施しているが、)面倒でもリサイクル紙(雑紙・雑誌)の日に合わせて出す。洗つてごみとして出すなどする。つまり、(有料)可燃ごみの袋をなるべく使わない努力をする。(=小さいサイズにする)(50 歳代)
- 徹底した分別と、不要なものは購入しない。(60 歳代)
- ごみの分別は最低限必要であり今後も行つていく。消費期限内に食べきれぬ量を購入する。常にごみの減量について考える。(60 歳代)
- 家庭のごみ箱を細分化し、資源ごみとして出しやすい工夫をする。(60 歳代)

【ごみを出さない】

- 外食が多いがなんとなくテイクアウトしていた。なるべくテイクアウトせず、店内で食べるようにする。(30 歳代)
- できる限り詰め替え用の製品を購入する、過度な包装を断る、生ごみは生ごみ処理機を使用する。(30 歳代)
- 過剰包装等は断る。コンビニの箸やスプーンなどプラスチック資源等を無駄に使用しないよう努める。(30 歳代)
- 過剰包装をしない。(30 歳代)

- ごみを出さない。(50 歳代)
- 包装紙をなるべく使わない選択。(50 歳代)
- ビニール袋をできるだけ使わない。(50 歳代)
- ごみを出さない。(60 歳代)
- 余分な紙袋、封筒、包装は辞退する。(60 歳代)
- まとめ買いで包装や容器を減らすようにしたい。(60 歳代)
- できるだけごみを出さないようにする。(70 歳代)
- できるだけごみを出さないように努力している。(70 歳代)
- 無駄なごみを出さないようにしている。(70 歳代)
- 買い物にはマイバッグを利用する。できるだけ食材から食事を作り、プラスチック容器に入った食品類は利用しない。(70 歳代)

【リサイクル】

- 繰り返し使えるもの、リサイクルできるものを利用するようにする。(20 歳代)
- 着用しなくなった洋服や使用しなくなったカバンなどをリサイクルショップへ持ち込む。(20 歳代)
- 不要品の廃却をできるだけ避け、インターネットやアプリを活用して他人に売るか譲るかする。(50 歳代)
- アプリやオークションなどで不用品を売却している。(50 歳代)
- リサイクルショップを利用している。(60 歳代)
- 不要品や家具などのリサイクルできるように積極的に行動する。可燃ごみやプラスチックごみの量を減らす工夫をする。(60 歳代)

【意識】

- ごみの減量、資源化のために取り組めることは、ものを大切にすることを心がけている。捨てる前に一瞬考えたり、又は買い物するときに、本当に使うものなのか、自問自答するようにする。そうすることで、自然と、無駄なごみが減るようにしたい。(30 歳代)
- できるだけ長く使えるものを購入して長く使う。買う前に会社の姿勢(環境に配慮しているかなどのポリシー)に共感できるかを考える。(40 歳代)
- 意識を高めることが重要。簡単に着手できることから徹底していきたい。(50 歳代)
- 自分のできる範囲で取り組みたい。(50 歳代)
- 地産地消。スーパーの棚の手前から商品を取る。(60 歳代)
- シンプルライフの実践。(60 歳代)
- ごみ出しマナーの徹底。(70 歳代)

【教育】

- 教育がされていないと考える。子どもを教育することで家にその知識を持ち帰り家族にも広がると考える。子供がいない家庭、高齢者には相当のサービス、指導が必要だと思う。(30 歳代)

【コンポストの設置・ごみ処理機の購入】

- 畑があるのでコンポストの設置。(40 歳代)
- ごみ処理機の購入について改めて考えてみようと思う。マンションなので処理後の使い道についても困ると思っていた。堆肥についてはベランダで家庭菜園も考えているが、台風や強風の時に都度室内に運び込むことを考えると踏み出せないでいる。(特に外出している時、すぐに対応できない時が心配。)(40 歳代)

【その他】

- 循環型社会を推進している企業への支援。(30 歳代)
- ノウハウなどの情報発信が役立つのでお願いしたい。(50 歳代)
- 包装材は原則としてプラスチック使用禁止。(70 歳代)
- 現在住んでいるマンションはごみの分別が大変厳しく、きちんとされているので、八王子市はマンションが多いので、その辺りのところを考えて対策をねってほしい。(70 歳代)
- 高齢化で不要になったもののリサイクルに困っている(リサイクルショップに持ち込めない)。信頼できる出張リサイクルショップを市が窓口となり、紹介してほしい。大量の衣料はボロ回収に少しずつ出すのが良いのか、ボロの回収に出された衣類はリサイクルされるのかどうか、リユースできるか、もっと広報にてPRしてほしい。(こんなものがリユースできるとPRされたし)(70 歳代)

問9 その他、ごみの減量・資源化に関するご意見・ご提案がございましたら、ご記入ください。

(自由記述 300字以内)

【ごみ袋】

- ごみ袋の無償化を希望。(20 歳代)
- ごみ袋の値段はこれ以上高くなってほしくない。(30 歳代)
- ごみ袋代金の値上げ。(40 歳代)
- ごみ袋は、地域によって価格が違うのはどうしてなのか？ごみ袋がない地域があるのも不思議。(50 歳代)

【助成・制度】

- 現在レジ袋は有料だがマイバスケット、マイバッグ割引があればごみ減量につながるかもしれない。(30 歳代)
- ごみの減量・資源化の推進で実績をあげている市区町村のやっける事を取り組んでみる。(30 歳代)
- 飲食店の廃棄物をなくすための制度作り(既にアプリなどもあるが、当日安く売る等の仕掛けを支援)。服などのリユースの場の推進。ゆずるための無料の引き取り制度など。(50 歳代)
- リサイクルショップはよく利用する。買取価格に市の補助金などを上乗せしてくれるとうれしい。買取価格の3%くらいで満足。(50 歳代)
- パソコンや携帯電話などの半導体のごみは金が取れるので他の自治体もやっているように八王子市でも財政の足しになるので今後検討してみたらどうか。(50 歳代)
- 段ボールコンポストの講習会に出てみたが、陽当たり良く、雨に濡れない場所や雨の時に段ボールを室内に入れるなど、手間や仕事をしている人には条件が難しい印象があった。家庭用生ごみ処理機の購入の補助などの検討をお願いします。(50 歳代)
- ごみの細分化・分別作業は、多忙な方にはそのひと手間がかけられないと感じる方もおられると思う。そこで、細分化・分別ができ、出した量に対して何かポイントが貰える仕組みがあれば、忙しくてもやる気が増し、面倒な作業も前向きにできるのではないかと。(60 歳代)
- 小枝や葉、草など畑や庭からでるごみの出し方を見ていると、1回に多くの袋や枝などを縛って出されているのを見ると、もっと制限をかけてもいいのではないかとすることがある。広い畑を持っている方は、生ごみの処理などや、草や葉を堆肥にしたりして、自然に返すことも大切だと思う。(60 歳代)
- マンション以外の戸建て住居のごみの排出場所について適切な対策を考えられてはいかかか。戸建て住居はごみの排出がバラバラで、カラスの多いところでは荒らされている。(70 歳代)

【段ボールコンポスト】

- 八王子は庭に土がある家が多いので、家庭内で処理できるようコンポストなどの設置を推進したほうが良い。助成金等が普及のためには必要かと思う。(40 歳代)

【事業者】

- 竹やヒノキなど余っていると思われる自然の物質で製品を作るなどの取り組み。(40 歳代)
- プラスチックについては過剰包装の取組を企業側でも考えてほしい。買い物時のレジ袋を有料化しても、ごみを出すように別途購入しては意味がなくなる。普段の買い物でも物凄い量のプラスチックが出る。お菓子や野菜も運送する時に崩れないようになどの理由があると思うが、全てプラスチックで包装されているので、プラスチックも環境に優しいものへ変える(安価なコストに出来るように研究開発も進める)などの取組をしてほしい。また、日本で取り組んでいて良い技術は世界へも発信してほしい。(40 歳代)
- 事業者への食品廃棄物に対する考え方を正す必要があると思う。(50 歳代)
- 事業者に過剰な包装をやめてほしい。(50 歳代)
- コンビニやスーパーマーケットのプラスチックトレイが減ってほしい。便利ばかりを求めると感覚が麻痺してしまいそう。(50 歳代)
- 食品は衛生面で難しいかもしれないが、製品を作る企業側も包装の簡素化をしてくれたらありがたい。(60 歳代)
- 小分けされた食品が多くなり容器が増加している現状をなんとかできないかと思う。(60 歳代)

【周知】

- 分別方法のさらなる周知をおこなってほしい、現状では分かりづらい品目もある。(20 歳代)
- 私の父(60 代後半)はあまり分別に対する意識がない。人によってはごみの分別に対する意識がとても低いように思える。何が資源になって、何がごみになるのか、丁寧に広報してくれると助かる。(30 歳代)
- 小中学校の勉強で、ごみの減量・資源化についてはしていると思うが、今まで以上に勉強(この問題について考える)時間を増やしてほしい。大人で守らない人がいても、子どもがやっていたら考え直してくれそうな気がする。(40 歳代)
- すぐに結果が出るわけでもなく、目にも見えにくいテーマであるので、しっかりと「見える化」をして、市民に意識してもらおう事が重要だと思う。広報や情報提供、体験学習や支援などに取り組み、「減量・資源化大賞」などを制定して、頑張っている人や企業・団体に顕彰していくのも良いのではないか。(40 歳代)
- リサイクル品を出したら、こんなものになって返ってきますと知ることが必要。リサイクル週間をつくって、その期間に資源を出したら、粗品(資源のリサイクルで作られた色々なもの)が手元に戻ってくる体験を各家庭に提供すると実感が湧くのではないか。(40 歳代)
- プラスチックは資源ごみとして回収されても、海外に運ばれてそこで大量のごみになっているという話を聞いたことがある。せっかく意識を持っていても、それでは全く意味がないし、その事実を知らないというのもどうかと思う。出したごみの行先を知ること、どう再生されているのかを知ることが資源ごみの回収、リサイクルに繋がると思う。(50 歳代)
- 常に減量・資源化を意識するように啓発活動が必要で、個々の意識を変えなければならないと思う。(60 歳代)

【その他】

- ネット通販などの利用が増え、段ボールや雑紙が溜まるので、近所に常時収集している場所を設置してほしい。(20 歳代)
- 買い物先で無料の袋を廃止したのは良いことと思う。(50 歳代)
- レジ袋の有料化などが実質的に金を払えばごみを出していいという風潮を醸成してる。(50 歳代)
- 有料ごみ袋代が気にならない収入のある人には、どんなに指導しても意味はない(=減らない)と思う。(50 歳代)
- できるだけごみを出さないようにする。(70 歳代)
- 家庭で分別したごみは、市でも一緒くたにすることなく分別しているのか？(70 歳代)

テーマ3 「中学校の学校選択制」について

学校教育部 学務課

本市では、お住まいの住所により通学区域を設けて入学する中学校（義務教育学校の後期課程を含む。）を指定（以下、「指定校」という。）していますが、指定校に入学することを原則としつつ、生徒や保護者の希望で入学する学校を選ぶことができる学校選択制を、平成16年度（2004年度）から導入しています。

今後の学校選択制を考える上で参考とするため、学校選択制の現状や導入効果また、地域コミュニティとの関わりについて、市政モニターの皆様にご意見をお伺いします。

【学校選択制の概要】

1 目的

学校選択制は、子どもに適した中学校を選択することができることで、入学後の学習や学校生活に積極的に取り組む意欲を高め、「特色ある学校づくり」や「開かれた学校づくり」を推進するとともに、学校と家庭が相互に連携協力し、地域に信頼される学校づくりを推進することを目的に実施しています。

2 学校を選択できる時

中学校に入学する時や住所変更により転校する時

3 選択できる学校

中学校：すべての市立中学校から選択

※受け入れ可能人数につきましては、習熟度別指導や新学習指導要領に基づく指導方法に沿った教室の利用計画を基に、受け入れ可能な人数を算出し決定します。選択希望者が定員を超える場合には、抽選により入学者を決定します。

4 「令和4年度 中学校の学校選択制のアンケート結果について」は次ページをご覧ください。

※学校選択制の概要については、市ホームページ「学校選択制」内の「学校選択制について」からご覧になれます。

<https://www.city.hachioji.tokyo.jp/kurashi/kyoiku/003/001/p005170.html>

二次元コードもご利用ください。

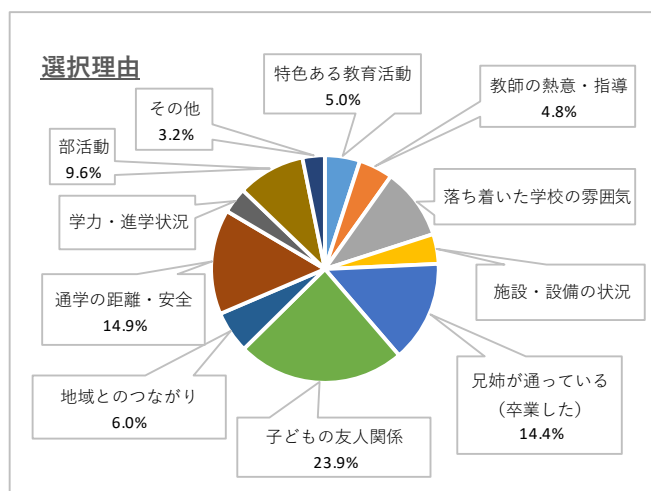


令和4年度 中学校（義務教育学校の後期課程を含む。）の学校選択制の
アンケート結果について

	人数(人)	割合(%)	
		今年度	前年度
入学者数	4,206		
選択希望者数	815	19.4	21.0

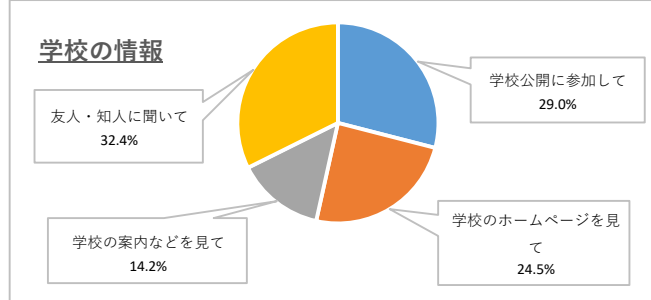
○選択理由アンケート（複数回答可）

特色ある教育活動	99	5.0	3.6
教師の熱意・指導	96	4.8	3.3
落ち着いた学校の雰囲気	202	10.2	7.8
施設・設備の状況	84	4.2	3.7
兄弟が通っている（卒業した）	286	14.4	16.1
子どもの友人関係	474	23.9	23.3
地域とのつながり	118	6.0	6.9
通学の距離・安全	296	14.9	18.0
学力・進学状況	73	3.7	3.7
部活動	191	9.6	10.0
その他	63	3.2	3.7



○学校の情報（複数回答可）

学校公開に参加して	346	29.0	10.4
学校のホームページを見て	292	24.5	31.2
学校の案内などを見て	169	14.2	14.7
友人・知人に聞いて	386	32.4	43.7



○通学の距離

指定校の方が近い	225	30.9	28.5
選択校の方が近い	246	33.8	37.8
どちらも同じくらい	256	20.8	19.6

※令和4年度 中学校の学校選択制のアンケート結果については、市ホームページ「学校選択制」内の「学校選択の状況は？」からもご覧いただけます。

<https://www.city.hachioji.tokyo.jp/kurashi/kyoiku/003/001/p005170.html>

二次元コードもご利用ください。



問1 あなたには、未就学児、小・中学生のいずれかのお子さんがいますか。（○は1つだけ）
(n=97)

	構成比(%)
いる	27.8
いない	72.2

未就学児、又は小・中学生のお子さんがあるか聞いたところ、「いる」が3割近く（27.8%）、「いない」が7割強（72.2%）であった。

問2 本市において、学校選択制を実施していることをご存じでしたか。 (○は1つだけ)
(n=97)

	構成比(%)
知っていた	54.6
知らなかった (⇒問3へ)	45.4

学校選択制を実施していることを知っているか聞いたところ、「知っていた」が5割台半ば(54.6%)、「知らなかった」が4割台半ば(45.4%)であった。

【問2で「知っていた」を選択した方】

問2-1 現在、学校選択制により全ての中学校から選択できることをご存じでしたか。
(○は1つだけ)
(n=53)

	構成比(%)
知っていた	67.9
知らなかった	32.1

全ての中学校から選択できることを知っているか聞いたところ、「知っていた」が7割近く(67.9%)、「知らなかった」が3割強(32.1%)であった。

問3 中学校を選択できる機会があることについて、どのように思いますか。 (○は1つだけ)
(n=97)

	構成比(%)
ある方がよいと思う	69.1
どちらかといえばある方がよいと思う	26.8
どちらかといえばない方がよいと思う	4.1
ない方がよいと思う	0.0

中学校を選択できる機会について聞いたところ、「ある方がよいと思う」が7割弱(69.1%)と最も多く、次いで「どちらかといえばある方がよいと思う」が3割近く(26.8%)であった。

問4 学校では、地域の人材や地域資源（自然や文化財など）を活用した授業や地域の意見を反映した（地域の特性に応じた）学校づくりなど、地域と連携した取り組みが行われていると思いますか。

（○は1つだけ）

（n=97）

	構成比(%)
そう思う（⇒問5へ）	17.5
ややそう思う（⇒問5へ）	26.8
あまりそう思わない	19.6
そうは思わない	1.0
わからない（⇒問5へ）	35.1

地域と連携した取り組みが学校で行われているか聞いたところ、「わかならい」が3割台半ば（35.1%）と最も多く、次いで「ややそう思う」が3割近く（26.8%）であった。

【問4で「あまりそう思わない」「そうは思わない」を選択した方】

問4 - 1 「地域と連携した取り組みが行われていない」と思うのは、なぜですか。

（○はいくつでも）

（n=20）

	構成比(%)
学校の情報が地域に伝わってこないため	80.0
学校と地域が意見を交換する場が少ないため	35.0
学校が地域の人材や地域資源を活用した授業等をあまり行っていないため	30.0
その他	5.0

地域と連携した取り組みが行われていないのはなぜか聞いたところ、「学校の情報が地域に伝わってこないため」が8割（80.0%）と最も多く、次いで「学校と地域が意見を交換する場が少ないため」が3割台半ば（35.0%）であった。

【その他】具体的に記入・入力があった内容

- 学校教育があまりにも文科省の教育の方針に縛られていて自由な発想で教育を実施できないことが原因とみられるため（例えば、ここでいう「地域と連携した取組」というのも中教審の発想の枠の中のことである）、自由な発想というのは、例えば、教科ごとに一番最高の授業を行うことができる先生（所謂教諭ではなく、外部の人も可）を選び、その先生にリモートによってより多くの生徒に授業をしてもらうことや、そのためのインフラ整備に国や地方自治体の予

算をつけることなどが考えられる。英語などはネイティブの発音のできる人が先生のスキルとして必要不可欠である。音楽や美術の授業には、一流の芸術家を講師に招くなど。

- 先生方が事務作業に追われ、どのような授業を行うことが子どもたちにとって最適かという工夫をする暇もないことが問題なので、事務作業をなくすことを本気で改善する必要がある。事務作業のうち文科省や地方自治体の教育行政の役所、教育委員会等の学校現場以外へのレポート等が多すぎると聞いている。それを1回のレポートをデータ化して共有すればすむことではないかと思う。
- 他の国の類似の制度で、取り入れることができることがあるのではないか。

問5 あなたの住んでいる地域の小・中学生は、町会のお祭りや地域の皆さんが実施しているスポーツや伝統芸能活動などに参加していますか。 (○は1つだけ)
(n=97)

	構成比(%)
参加している (⇒問6へ)	13.4
ときどき参加している (⇒問6へ)	28.9
あまり参加していない	10.3
参加していない	11.3
わからない (⇒問6へ)	36.1

小・中学生が、町会のお祭りや地域で実施しているスポーツや伝統芸能活動などに参加しているか聞いたところ、「わからない」が4割近く(36.1%)と最も多く、次いで「ときどき参加している」が3割近く(28.9%)であった。

【問5で「あまり参加していない」「参加していない」を選択した方】

問5-1 「小・中学生が、町会のお祭りや地域の皆さんが実施しているスポーツ、伝統芸能活動などに参加していない」のはなぜだと思いますか。 (○はいくつでも)
(n=21)

	構成比(%)
小・中学生の多くが地域の活動に関心をもっていないため	23.8
地域活動の情報が小・中学生に十分伝わっていない	33.3
小・中学生の保護者の多くが地域の活動に関心をもっていないため	28.6
地域の皆さんと小・中学生のふれ合う機会が少ないため	47.6
その他	9.5

小・中学生が、町会のお祭りや地域で実施しているスポーツや伝統芸能などになぜ参加しないか聞いたところ、「地域の皆さんと小・中学生のふれ合う機会が少ないため」が5割近く（47.6%）と最も多く、次いで「地域活動の情報が小・中学生に十分伝わっていない」が3割強（33.3%）であった。

【その他】具体的に記入・入力があった内容

- 食物アレルギーがあるため、他の子と同じものを食べたりするのが難しい。
- 町会のお祭り、伝統芸能活動がこれまでの古いものをそのまま継続していて、若い人たちの目に魅力あるものと捉えられていないことが一番大きいと思う。もちろん、どのようにしたら魅力あるものにできるかを模索されているとは感じるが、まだ目に見える変化は感じられない。もっと、もっと町会や伝統芸能活動をする側も若い人に受け入れられるように、積極的に変化していかなければいけないのではないかな。

問6 あなたのお住いの地域では、地域の皆さんが、登下校中の小・中学生の安全を見守るなど「地域の子ども」として育てようという活動が行われていますか。（○は1つだけ）

(n=97)

	構成比(%)
行われている	30.9
やや行われている	26.8
あまり行われていない	8.2
行われていない	1.0
わからない	33.0

登下校中の小・中学生の安全を見守るなど「地域の子ども」として育てる活動が行われているか聞いたところ、「わからない」が3割強（33.0%）と最も多く、次いで「行われている」が約3割（30.9%）であった。

問7 「中学校の学校選択制」について、ご意見・ご提案がありましたらご記入ください。

(自由記述)

【賛成（選択の自由は必要）】

- とても良い制度だと思うので、今後も維持してほしい。(20 歳代)
- 良いことだと思う。生徒の確保のために学校も努力していくと思う。(30 歳代)
- 今の時代幅広い選択を望む。(30 歳代)
- 私の友人の何人かは学校選択制を利用して、学区外からやって来ていました。その子たちと仲良くなれたのはこの制度のおかげですし、友人たちがわざわざ遠くの中学校に来た理由が「(当時は珍しかった) 女子はスカートだけでなく、ズボンも履くことが可能だったから」でした。行きたい学校に自分たちで選択できるのはとても良いことだと思う。このままこの制度が続くことを願っている。(30 歳代)
- 今後は IT 教育もどんどん進んでいくので学校を選べるのは良いことだと思う。これにより学校同士の競争力が高まり八王子市の学校全体の学力 UP につながることを望む。家庭で学校を選ぶ場合は親の考えだけでなく、子どもの意見を尊重して選んでいきたい。(30 歳代)
- 自分が通った学校に行かせたかったので、選択制になり良かった。(40 歳代)
- 選択制により、部活動や通学距離など様々なところから選択できるのは良いと思う。(40 歳代)
- 小学校入学の際、学校選択をしました。通学時間がかかりますが、本人の意思を尊重できたことは良かったと思う。(50 歳代)
- 自身の時代にはなかった制度であるが、引っ越しや進路など、それぞれの事情に合わせて選択ができるのは良いと思う。(50 歳代)
- いろいろな理由で不登校になることを考えると学校選択という方法も不登校回避になるのではないかと思う。(60 歳代)
- 私は目黒区から世田谷区に引っ越し、中学3年間は越境入学通学でした。良い学校だったので自転車通学も苦にもならず、通い切りました。親のサポートと本人の意志で学校選択は良いと思う。(70 歳代)

【賛成（いじめ対策になる）】

- いじめなどの問題もあるので、お子さん本人の選択ができることは大いに良いことだと思う。(20 歳代)
- 小学校で、いじめや馴染まないなど悩みを抱えた子どもが、そのまま進学するより選べると精神的にも良いと思う。(40 歳代)
- 中学校の学校選択制度が入学時だけでなく、入学してからいじめにあった生徒のために、学期ごと、学年ごとに選択できると良いと思う。(50 歳代)
- 小学校でいじめなどがあった場合など同じ中学校に進むより学校選択制があった方が良いことだと思う。また、希望のある学校には受け入れが全て可能になれば良いと思う。(60 歳代)

【賛成（ご意見あり）】

- 自分の意志で選び、学びができることは、未来への一歩につながるので、とても良いと思う。ただ、何も先のことを考えられない人も多いと思うので、その人に対しての対応は必要だと思う。自分の意見が言えないという現われでもあるので。(20 歳代)
- 学校により、指導方法が異なっていたり、校内の雰囲気が違うので、1人ひとりの個性に合う学校を選ぶのは良いことだと思うが、生徒数が偏ることもあるので、学校ごとでレベルが違ってしまおうと思う。(20 歳代)
- 良いと思う。学区縛りのみで遠い学校に通う子どもいるので、この制度は賛成。ただし知られてないのではないかとも思う。(30 歳代)
- 定員を超えたら抽選ということ。仕方ないと思うが、気の毒です。(50 歳代)
- 学校選択制は良い制度だと思う。特に子ども自身が選んだ場合、その意思是尊重したいので、抽選はできるだけ避けてあげたいと思う。また抽選になるほどの人気校と極端に生徒数が減ってしまうような学校が明確になるが、なぜそのようなことになってしまうのか、根本的に考え、改善していかなくてはいけない。(50 歳代)
- 選択制には賛成である一方で、魅力のない学校がある地域は活力が損なわれる（子どもがその地域に愛着を持たなくなる）恐れが発生するかもしれない。学校運営側は、魅力のある学校づくりを地域に示さないといけない。(50 歳代)
- 私自身は子育てが終わった世代で、今の八王子市の現状を良く知らないが、人生は選択の繰り返しで、その先駆けとして学校を選択制は、生徒側が自らの学校を調べ、行きたい学校を選ぶ自発的な行為が、子ども達の将来のためになると思う。反面、学校の人気度にバラつきが生じ、学校現場はその都度対応に追われ、教職員の負担が増してしまうのが気になる点。しかし、結果によっては学校側も対策をねり、学校同士、切磋琢磨し、それが八王子市全体の学校のレベルアップにつながるのではないか。学校間で共通のオンライン授業や生徒間のしゃべり場があっても楽しいし、時には外部のプロの力を積極的に導入したりして、幅広い角度から学校を支える教育現場があれば、生徒達はその環境下で多くの刺激を受けながら、互いに成長できるのではと思う。(60 歳代)
- 学校間の競争を芽生えさせるという意味では有効だし、競争によってより子どもたちの将来の人生にプラスになる教育活動がめざされることが望ましい。しかし、学校や文科省の取り組み方がそれにふさわしい方向になっているかどうかについて、文科省の天下りの団体ではなく、先進的な教育専門である民間の第3者機関がモニターし、その意見を尊重しなければいけないという制度的な裏付けがなければ、文科省やその指示に従わざるを得ない学校の現場は本気になって取り組まないのではないか。(70 歳代)

【反対】

- 昔どおりに小中学校は同じ方が何かと便利だと思う。(70 歳代)
- 不要と思う。(70 歳代)

【現状の問題点】

- 各学校の情報に、親同士の話が入ってきている。どの学校も、先生の質、風紀、学力が一緒になれば良いのですが、親の意見で学校を決めているのが現実。安全面からも通学が近いことに越したことはないと思う。学校によって、児童数の差が大きくならないようにしたい。(40 歳代)
- 小学校の学区と違うため、小学校の近くのお子さんが行けない(抽選で落ちる可能性がある)ことがあることについては驚いた。抽選にならないように引っ越しをする、又は引っ越しを控えるということもある。選択制のために、人気のある地域、人気がない地域がはっきり出てくると思う。(40 歳代)
- 子どもたちが、(例えば外国人に聞かれて)自分の住んでいる街がどんなところか答えられるような自らが暮らす地域に対する理解が深まることを期待する。(50 歳代)
- いわゆる口コミによる選択となり、人気、不人気の学校ができてしまうのは問題だと思う。(50 歳代)
- 多様な子どもすべてに対応するのは至難の技、それでも対応すべきだと考えるが、各学校の独自性を認めないと無理だろう。←学校選択制は一つの方策足りうるのではないか。(70 歳代)
- 学校ごとの生徒人数のバラつきが多くならないように。(70 歳代)

【情報提供の充実を】

- それぞれの学校の特色について情報提供していく。(40 歳代)
- 学校選択制度について、5年、10年といった中長期計画など公開されているのか。(40 歳代)

【その他】

- 学校選択制度とは少し離れるが、登下校のスクールバスを小中学校に導入したほうが良いと思う。経費は掛かるがお子さんを交通事故から守るという観点から率先して八王子市が進みますと住みよい街、お子さんを大切に作る街として市民の安心安全につながると思う。(50 歳代)
- 地域の活動に小学校の時は参加していることが多いが、中学生の参加は少ないと思われる。登下校の安全の見守りも小学校が中心と思われる。(60 歳代)

令和4年度(2022年度)市政モニター
第2回アンケート結果
令和5年(2023年)2月

発行 八王子市総合経営部 広聴課
八王子市元本郷町三丁目 24 番 1 号
電話 042(620)7411(直通)
FAX 042(620)7322